

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

平尾小	学校	児童数	51
-----	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.74	19.80	29.25	40.50	48.10	9.10	150.44	23.75	52.39
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	15.10	21.68	34.43	36.53	34.27	9.63	141.97	13.21	54.04
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

今年度の調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか。」という質問に、肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、男子100%、女子96.7%だった。また、「体育の授業は楽しいですか。」という質問に、「楽しい」「やや楽しい」と回答する児童の割合は、男子100%、女子96.8%だった。どちらも高い数値であることから、男女共に体を動かすことへの高い意欲と関心をもっていることが分かった。一方、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は男子38.9%、女子20.0%であり、全国平均を大きく下回る結果となった。運動への高い意欲や関心はもちつつも、学校の教育活動や普段の生活における運動機会が少ないのが現状である。体力合計点においては全国平均と同一の結果となった。具体的には、握力や長座体前屈等、筋力、柔軟性に課題が見られるため、改めて体力向上に向けた取組の強化が必要であることが明らかになった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度は、昨年度の調査結果の検証を基に、全校での「なわとびタイム」や、「夢・授業」事業を活用したアスリートとの交流を通して、児童が運動やスポーツの楽しさを味わうことができるように、体育的行事を計画した。昨年度課題であった、立ち幅とびや50m走等、主に敏捷性については大阪市平均を大きく上回る結果であった。体育学習で身につけた力を存分に発揮できるように、運動会のプログラム内容を工夫・改善した。さらに、年間を通して外遊びを励行したことと、身体の動かし方を考える指導を積み重ねたことで、男女共に体を動かすことへの高い意欲と関心をもつことができた。体を動かすことの楽しさや大切さを全教職員で共有し、児童の健康的な体作りへの取り組みを継続できたことは、今後に活きる成果となった。ただ、体力合計点は全国平均を下回る部分もあることから、今後も体育的行事の見直しを継続しつつ、日々の体育科指導を充実していくことが課題である。

